

2020年3月期 第2四半期 決算実績 概況資料

2019年11月7日

株式会社西武ホールディングス（9024）
<http://www.seibuholdings.co.jp/>

I. エグゼクティブ・サマリー

P2

II. 2020年3月期 第2四半期までの主な取り組み P6

III. セグメント情報及び営業指標 P9

IV. 決算実績詳細 P22

V. 2020年3月期 連結業績予想 P26

2020年3月期 第2四半期 決算実績

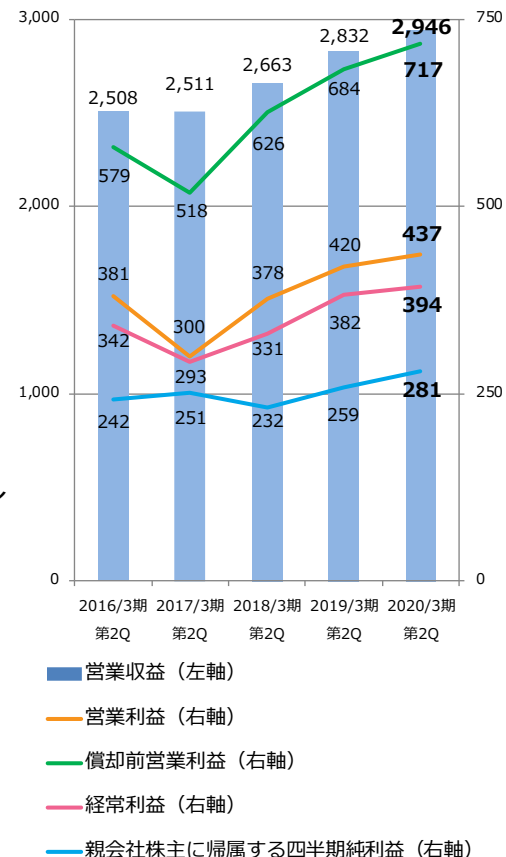
(金額単位：億円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		2020/3期 第2Q予想	対予想 (増減額・率)	
営業収益	2,832	2,946	+114	+4.0%	2,945	+1	+0.1%
営業利益	420	437	+17	+4.1%	401	+36	+9.2%
償却前営業利益*	684	717	+33	+4.9%	679	+38	+5.7%
経常利益	382	394	+12	+3.3%	360	+34	+9.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	259	281	+21	+8.3%	258	+23	+9.0%

※償却前営業利益は、営業利益に減価償却費及びのれん償却額を加えて算定しております。

業績の推移

(金額単位：億円)



決算実績ポイント

■ 営業収益

ホテル業におけるRevPARの上昇および食堂部門の客数の増加、分譲マンション「アンヴィーネ 保谷」の引渡し、鉄道業における旅客運輸収入の増加、西武ライオンズの観客動員数の増加のほか、ハワイ事業におけるホテルのRevPAR上昇などにより増収

▶ 3ページ

■ 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益

増収により増益

▶ 4・22・23ページ

<西武鉄道・鉄道業>

運輸収入 前年同期比+3.0% (定期+2.7%、定期外+3.2%)

▶ 10ページ

<ホテル業>

RevPAR 13,104円 (前年同期比+4.2%)

シティ 14,015円 (同+4.9%)、リゾート 11,237円 (同+2.5%)

▶ 12ページ

セグメント別営業収益

(金額単位：億円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		2020/3期 第2Q予想	対予想 (増減額・率)		摘要
都市交通・沿線事業	822	840	+18	+2.2%	844	△3	△0.4%	鉄道業において、メットライフドームでのコンサート開催数の増加、特急等の料金収入の増加、ムーミンバレーパークの開業などにより定期外の旅客運輸収入が増加したことや、消費税率引き上げに伴う定期券の先買い需要があったことなどにより増収。対予想では、西武園ゆうえんちなどの沿線レジャー施設が夏季の天候不順の影響を受けたことなどにより減収。
ホテル・レジャー事業	1,097	1,131	+34	+3.1%	1,172	△40	△3.4%	大型連休の行楽需要の取込みなどによるホテル業のRevPAR上昇および食堂部門の客数の増加、StayWell社において前期に事業取得したABホテルズLtdの収益寄与、プリンス パケーション クラブの開業などにより増収。対予想では、リゾートホテルやゴルフ場、横浜・八景島シーパラダイスが天候不順の影響を受けたこと、ホテル業において外国人客の室料収入が計画を下回ったことなどにより減収。
不動産事業	326	349	+22	+6.8%	342	+7	+2.1%	分譲マンション「アンヴィーネ 保谷」の引渡しや、ダイヤモンド池袋の開業などにより増収。対予想では、分譲地販売や、軽井沢・プリンスショッピングプラザの好調、賃貸住宅の高稼働などにより増収。
建設事業	482	501	+18	+3.9%	485	+16	+3.3%	前年同期にあった大型のリノベーション工事がなくなったものの、民間住宅工事や公共土木工事、造園請負工事の増加のほか、建材の仕入販売の増加などにより増収。対予想では、想定よりも進捗した土木工事があったことや、建材の仕入販売が増加したことなどにより増収。
ハワイ事業	94	110	+15	+16.8%	111	△0	△0.9%	前期にウェスティンブランドに加盟し、リニューアルオープンしたウェスティン ハプナ ビーチ リゾートが収益向上に寄与したほか、プリンス ワイキキ、マウナ ケア ビーチ ホテルにおけるRevPAR上昇および飲食部門の客数増加などにより増収。
その他	259	275	+16	+6.4%	263	+12	+4.8%	西武ライオンズにおいて各種営業施策の実施や好調なチーム成績を背景に観客動員数が増加したほか、メットライフドームにおけるコンサート等の貸会場収入が増加したことなどにより増収。
調整額	△249	△261	△12	—	△272	+10	—	
連結数値	2,832	2,946	+114	+4.0%	2,945	+1	+0.1%	

セグメント別営業利益・償却前営業利益

■ 営業利益

(金額単位：億円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		2020/3期 第2Q予想	対予想 (増減額・率)		摘要
都市交通・沿線事業	160	165	+5	+3.1%	158	+7	+4.8%	鉄道業における人件費、修繕費や、一般管理費が増加したものの、増収により増益。対予想では、西武園ゆうえんちなどの沿線レジャー施設が夏季の天候不順の影響を受けたものの、鉄道業やバス業において費用が減少したことなどにより増益。
ホテル・レジャー事業	103	96	△7	△7.4%	100	△3	△3.7%	増収による増益があったものの、販管費の増加などにより減益。対予想では、販管費や修繕費などの費用を抑制したものの減収により減益。
不動産事業	105	104	△0	△0.3%	95	+9	+10.4%	増収による増益があったものの、ダイヤゲート池袋にかかる減価償却費の計上などにより減益。対予想では、増収に加え、水道光熱費など一部費用の減少により増益。
建設事業	21	23	+2	+12.3%	17	+6	+40.0%	土木工事の増収や利益率の向上などにより増益。
ハワイ事業	△4	1	+6	—	2	△0	△14.5%	増収により損益が改善。
その他	30	38	+8	+28.1%	30	+8	+28.5%	増収による増益。
調整額	4	7	+2	+62.0%	△1	+8	—	対予想：主に当社の営業利益の増加
連結数値	420	437	+17	+4.1%	401	+36	+9.2%	

■ 償却前営業利益

(金額単位：億円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		2020/3期 第2Q予想	対予想 (増減額・率)		摘要
都市交通・沿線事業	265	270	+4	+1.8%	265	+5	+2.2%	
ホテル・レジャー事業	184	180	△3	△1.8%	183	△2	△1.1%	
不動産事業	156	163	+7	+4.7%	153	+10	+6.8%	
建設事業	23	25	+2	+11.9%	19	+6	+36.4%	
ハワイ事業	7	15	+7	+106.0%	16	△0	△3.2%	
その他	44	54	+10	+22.4%	46	+8	+19.1%	
調整額	2	6	+4	+171.5%	△3	+9	—	
連結数値	684	717	+33	+4.9%	679	+38	+5.7%	

I. エグゼクティブ・サマリー P2

**II. 2020年3月期 第2四半期までの
主な取り組み P6**

III. セグメント情報及び営業指標 P9

IV. 決算実績詳細 P22

V. 2020年3月期 連結業績予想 P26

2020年3月期 第2四半期までの主な取り組み

全体

- ・コーポレート・ガバナンス強化の観点から、取締役に対する新たな株式報酬制度を導入（2019年6月21日）
- ・オープンイノベーションプログラム「Biz Lab Accelerator 2017」で採択した株式会社Air Xと協業し、ヘリコプター直行便の実証実験を実施（2019年7月27日～9月8日）
- ・SDGsを意識した社会課題解決への取り組み「サステナビリティアクション」を推進

都市交通・沿線事業

- ・西武新宿駅のリニューアル工事が完成し、西武鉄道では2カ所目の訪日外国人向け観光案内所オープン（2019年4月1日）
- ・西武鉄道とヤフー株式会社が、ビッグデータとAIを活用した鉄道の混雑予測を発信する実証実験を実施（2019年8月19日～9月20日）
- ・001系「Laview」が第13回キッズデザイン賞『子どもたちを産み育てやすいデザイン部門』を受賞（2019年8月23日）
- ・西武鉄道が株式会社 刀と協業し、西武園ゆうえんちのリニューアルを決定（2021年開業予定）
- ・西武鉄道沿線レジャー施設（としまえん、西武園ゆうえんちなど）で、使い捨てプラスチック製ストローを順次廃止（2019年5月下旬以降）

ホテル・レジャー事業

- ・初の会員制リゾートとして、「プリンス バケーション クラブ 軽井沢浅間」、「プリンス バケーション クラブ ヴィラ軽井沢浅間」を開業（2019年7月8日）
- ・伊豆長岡温泉 三養荘バリューアップ実施。別館客室8室は会員制旅館「プリンス バケーション クラブ 三養荘」としてリニューアル（2019年7月17日開業）

2020年3月期 第2四半期までの主な取り組み

ホテル・レジャー事業

- ・次世代型宿泊特化ホテル「プリンス スマート イン」2020年夏に熱海、2021年夏に京都での開業を決定
- ・グローバルラグジュアリーブランド第1号店「The Prince Akatoki London」を開業（2019年9月16日）
- ・元京都市立清水小学校跡地活用計画におけるホテル事業の運営委託契約を締結し、ホテル名称を「The Hotel Seiryu Kyoto Kiyomizu（日本語表記：ザ・ホテル青龍 京都清水）」に決定（2020年3月開業予定）
- ・世界的な問題となっている食品ロスに対し、「食品ロス削減に向けた実施計画」を策定（2019年5月16日）

不動産事業

- ・ダイヤゲート池袋が開業（2019年4月）
- ・東長崎駅南口に賃貸住宅・商業施設・保育所からなる複合施設竣工
沿線で計6カ所目となる駅チカ賃貸住宅「エミリブ東長崎」入居開始（2019年9月）
- ・当社グループで初めてとなるシェアオフィス事業「emiffice（エミフィス）」の1号物件として「エミフィス練馬」を練馬駅構内にオープン（2019年9月）

その他

- ・メットライフドームエリア改修計画を推進。「ライオンズ チームストア フラッグス」開業、「新室内練習場・若獅子寮」「オフィス棟」使用開始（2019年7月）
- ・埼玉西武ライオンズが2年連続23度目のパシフィック・リーグ優勝（2019年9月）

I. エグゼクティブ・サマリー P2

II. 2020年3月期 第2四半期までの主な取り組み P6

III. セグメント情報及び営業指標 P9

IV. 決算実績詳細 P22

V. 2020年3月期 連結業績予想 P26

都市交通・沿線事業 概況

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	82,251	84,092	+1,840	+2.2%	
鉄道業	53,174	55,111	+1,937	+3.6%	鉄道業において、定期・定期外ともに旅客運輸収入が増加したことなどにより増収
バス業	13,381	13,445	+63	+0.5%	路線バスが堅調に推移し増収
沿線レジャー業	11,893	11,676	△ 216	△ 1.8%	西武園ゆうえんちなどの沿線レジャー施設が夏季の天候不順の影響を受けたことなどにより減収
その他	3,801	3,858	+57	+1.5%	横浜アリーナの稼働日数が増加したことなどにより増収
営業利益	16,050	16,553	+502	+3.1%	鉄道業における人件費、修繕費や、一般管理費が増加したものの、増収により増益
償却前営業利益	26,594	27,070	+476	+1.8%	【西武鉄道 鉄道事業部門費用】(対前年同期増減) ・人件費 13,858 (+479) ・修繕費 3,163 (+267) ・動力費 3,244 (+88) ・減価償却費 7,799 (△78) ・固定資産除却費 210 (+89)

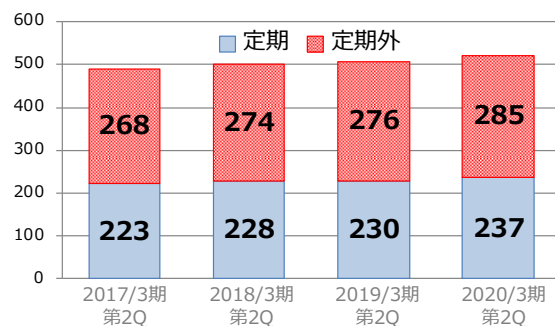
都市交通・沿線事業 鉄道業の運輸成績

輸送人員・旅客運輸収入（西武鉄道株式会社）

（人員単位：千人、金額単位：百万円）

	2017/3期 第2Q	2018/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2019/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2020/3期 第2Q	対前年同期 増減率
輸送人員	定期	206,397	+2.0%	212,759	+1.0%	219,519	+3.2%
	定期外	122,140	+1.5%	124,653	+0.5%	127,987	+2.7%
	計	328,538	+1.8%	337,412	+0.8%	347,506	+3.0%
旅客運輸 収入	定期	22,389	+2.1%	23,091	+1.0%	23,718	+2.7%
	定期外	26,844	+2.3%	27,619	+0.6%	28,502	+3.2%
	計	49,233	+2.2%	50,711	+0.8%	52,220	+3.0%
運輸雑収	1,989	1,993	+0.2%	1,986	△ 0.3%	2,002	+0.8%
収入合計	51,223	52,303	+2.1%	52,698	+0.8%	54,222	+2.9%

（単位：億円） 旅客運輸収入の推移



2019年11月7日 Copyright © SEIBU HOLDINGS INC. All Rights Reserved.

■ 定期

消費税率引き上げに伴う定期券の先買い需要があったことや、雇用情勢の堅調な推移などにより増加

■ 定期外

メットライフドームでのコンサート開催数の増加や、特急等の料金収入の増加、消費税率引き上げに伴う回数券の先買い需要、ムーミンバレーパークの開業、大型連休の行楽需要の取込みなどにより増加

ホテル・レジャー事業 概況

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	109,724	113,178	+3,453	+3.1%	
ホテル業（シティ）	62,483	64,667	+2,183	+3.5%	大型連休の行楽需要の取込みなどによるRevPARの上昇、食堂部門の客数の増加などにより増収
ホテル業（リゾート）	21,865	22,530	+665	+3.0%	天候不順の影響があったものの、大型連休の行楽需要の取込みや、プリンス バケーション クラブの開業などにより増収
ゴルフ場業	7,594	7,638	+43	+0.6%	
その他	17,781	18,342	+560	+3.2%	StayWell社において前期に事業取得したABホテルズLtdの収益寄与などにより増収 【StayWell社 ホテル運営数】 2020/3期2Q末時点 25、2019/3期2Q末時点 22
営業利益	10,397	9,632	△ 764	△ 7.4%	増収による増益があったものの、販管費の増加などにより減益
償却前営業利益	18,424	18,089	△ 334	△ 1.8%	

ホテル・レジャー事業 営業指標の推移

ホテル業の営業指標（株式会社プリンスホテル）

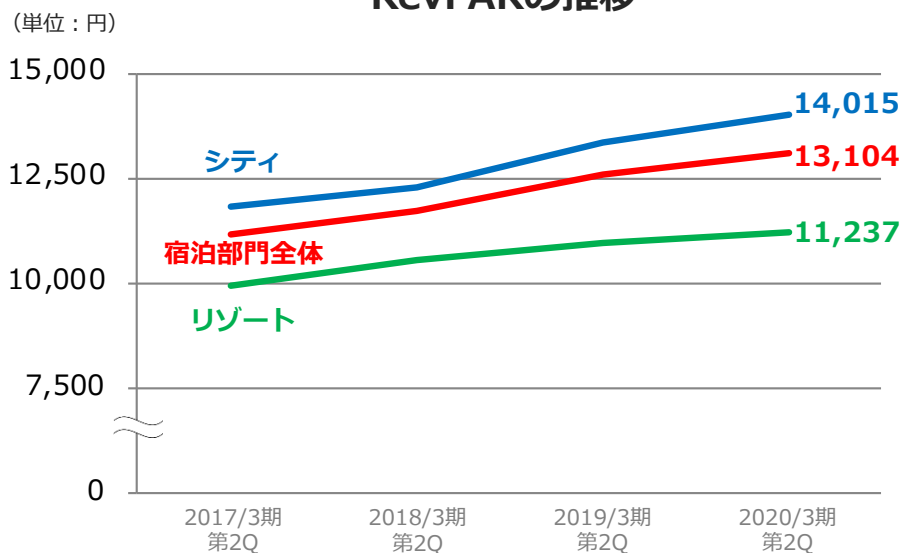
(RevPAR・平均販売室料：円)

		2017/3期 第2Q	2018/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2019/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2020/3期 第2Q	対前年同期 増減率
RevPAR	シティ	11,845	12,310	+3.9%	13,362	+8.5%	14,015	+4.9%
	高輪・品川エリア	12,825	12,684	△ 1.1%	13,652	+7.6%	13,962	+2.3%
	リゾート	9,953	10,576	+6.3%	10,958	+3.6%	11,237	+2.5%
	軽井沢エリア	22,060	24,108	+9.3%	23,107	△ 4.2%	23,591	+2.1%
	宿泊部門全体	11,171	11,744	+5.1%	12,576	+7.1%	13,104	+4.2%
平均販売室料	シティ	14,689	15,007	+2.2%	15,590	+3.9%	15,948	+2.3%
	高輪・品川エリア	14,718	14,765	+0.3%	15,094	+2.2%	15,505	+2.7%
	リゾート	17,415	17,246	△ 1.0%	17,328	+0.5%	17,249	△ 0.5%
	軽井沢エリア	34,041	34,869	+2.4%	32,021	△ 8.2%	31,721	△ 0.9%
	宿泊部門全体	15,456	15,602	+0.9%	16,049	+2.9%	16,293	+1.5%
客室稼働率	シティ	80.6%	82.0%	+1.4pt	85.7%	+3.7pt	87.9%	+2.2pt
	高輪・品川エリア	87.1%	85.9%	△ 1.2pt	90.4%	+4.5pt	90.0%	△ 0.4pt
	リゾート	57.2%	61.3%	+4.2pt	63.2%	+1.9pt	65.1%	+1.9pt
	軽井沢エリア	64.8%	69.1%	+4.3pt	72.2%	+3.0pt	74.4%	+2.2pt
	宿泊部門全体	72.3%	75.3%	+3.0pt	78.4%	+3.1pt	80.4%	+2.1pt

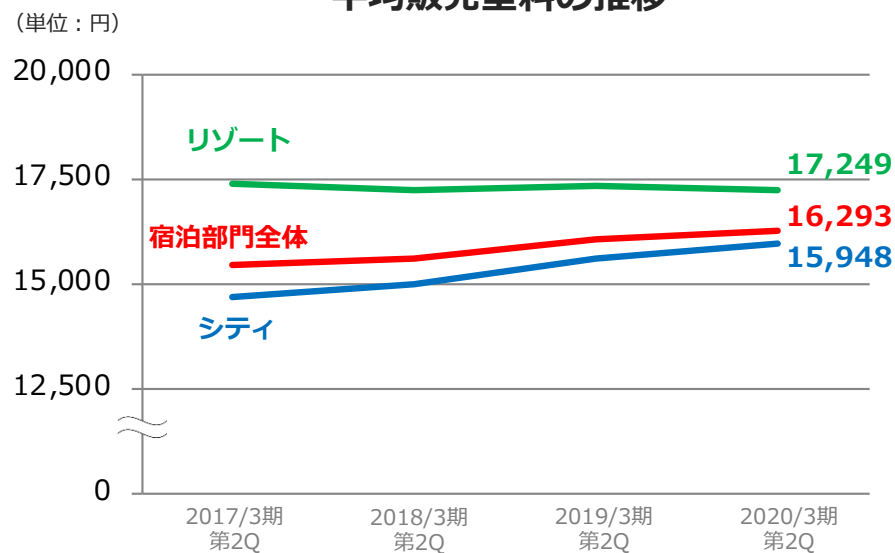
(注) 高輪・品川エリア：ザ・プリンス さくらタワー東京、グランドプリンスホテル高輪、グランドプリンスホテル新高輪、品川プリンスホテル
 軽井沢エリア：ザ・プリンス 軽井沢、ザ・プリンス ヴィラ軽井沢、軽井沢プリンスホテル

ホテル・レジャー事業 営業指標の推移

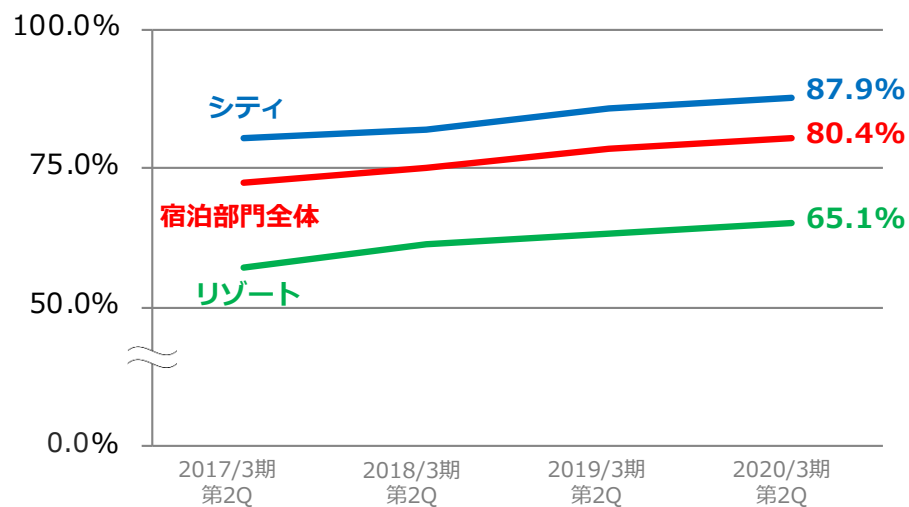
RevPARの推移



平均販売室料の推移



客室稼働率の推移



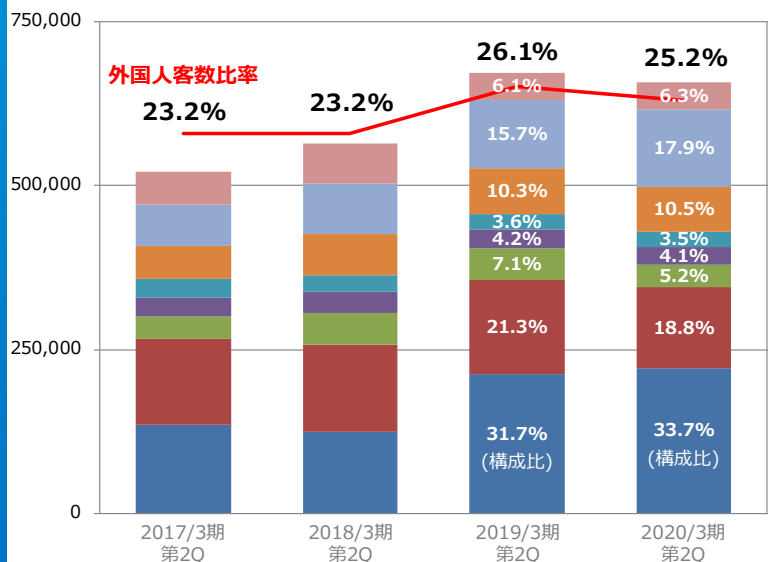
ホテル・レジャー事業 インバウンドの動向 (宿泊客数・室料収入)

(人員単位：人、金額単位：百万円)

		2017/3期 第2Q	2018/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2019/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2020/3期 第2Q	対前年同期 増減率
宿泊客数 の内訳	邦人客	1,725,178	1,870,130	+ 8.4%	1,907,013	+ 2.0%	1,950,786	+ 2.3%
	外国人客	520,656	564,278	+ 8.4%	672,492	+ 19.2%	657,194	△ 2.3%
	計	2,245,834	2,434,408	+ 8.4%	2,579,505	+ 6.0%	2,607,980	+ 1.1%
室料収入	外国人客	9,060	10,658	+ 17.6%	12,672	+ 18.9%	13,272	+ 4.7%

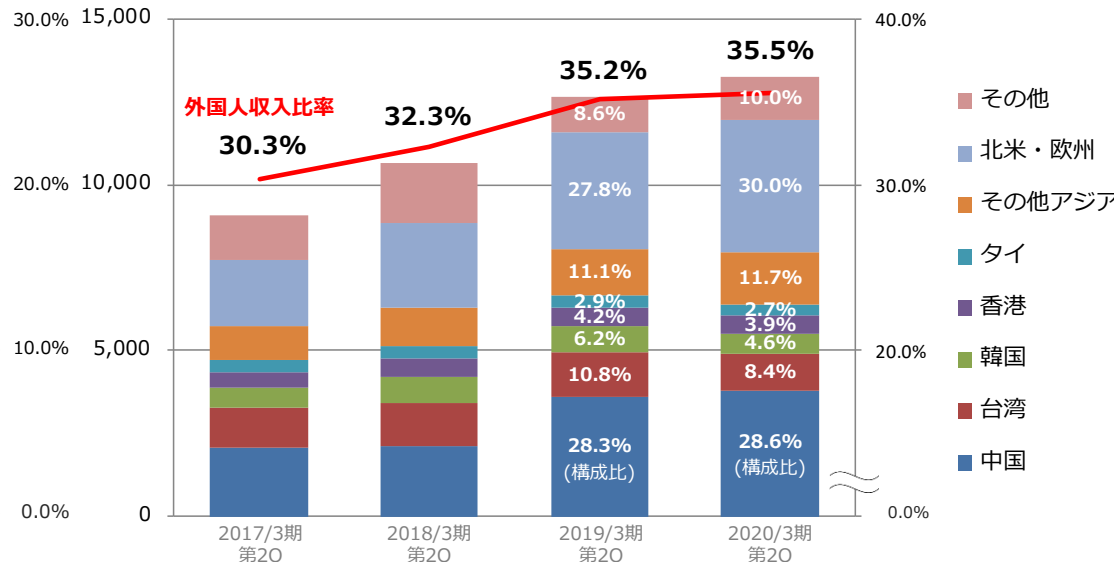
外国人宿泊客数・比率

(単位：人)



外国人室料収入・比率

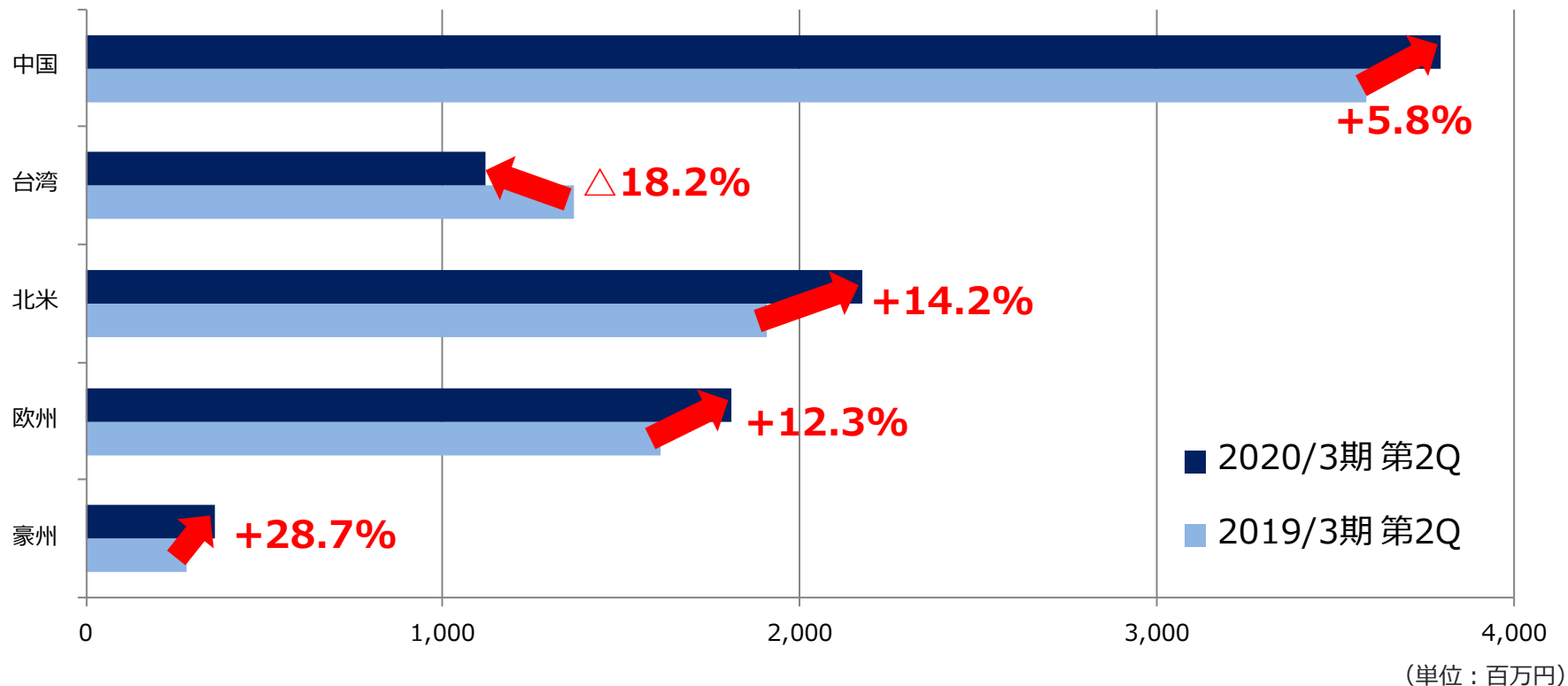
(単位：百万円)



2019年11月7日 Copyright © SEIBU HOLDINGS INC. All Rights Reserved.

ホテル・レジャー事業 マーケットチェンジの状況

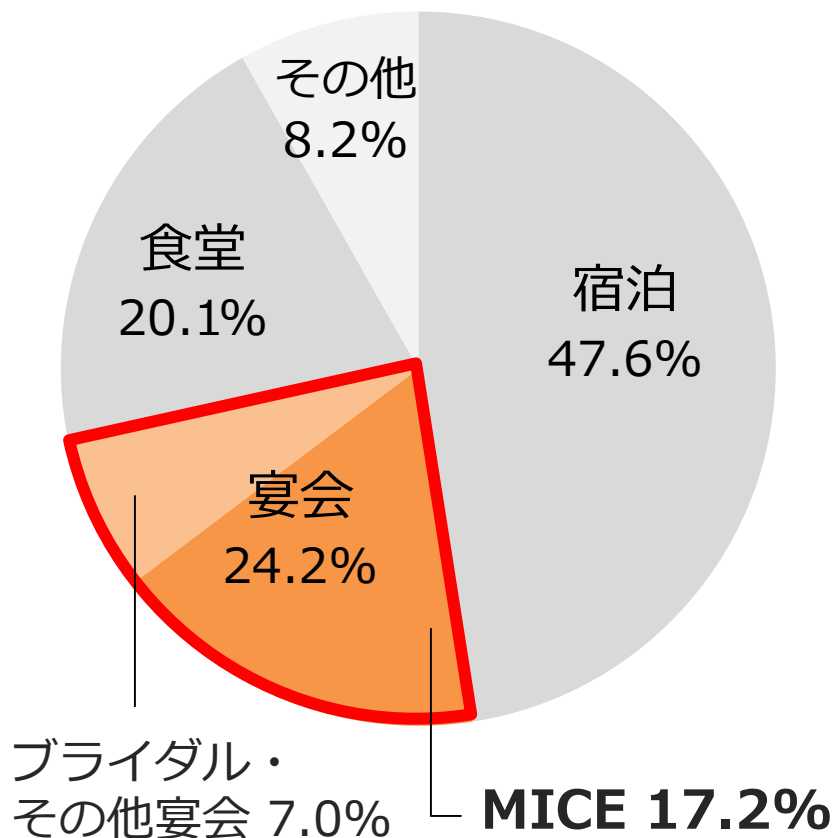
■ 主な国・地域の外国人室料収入



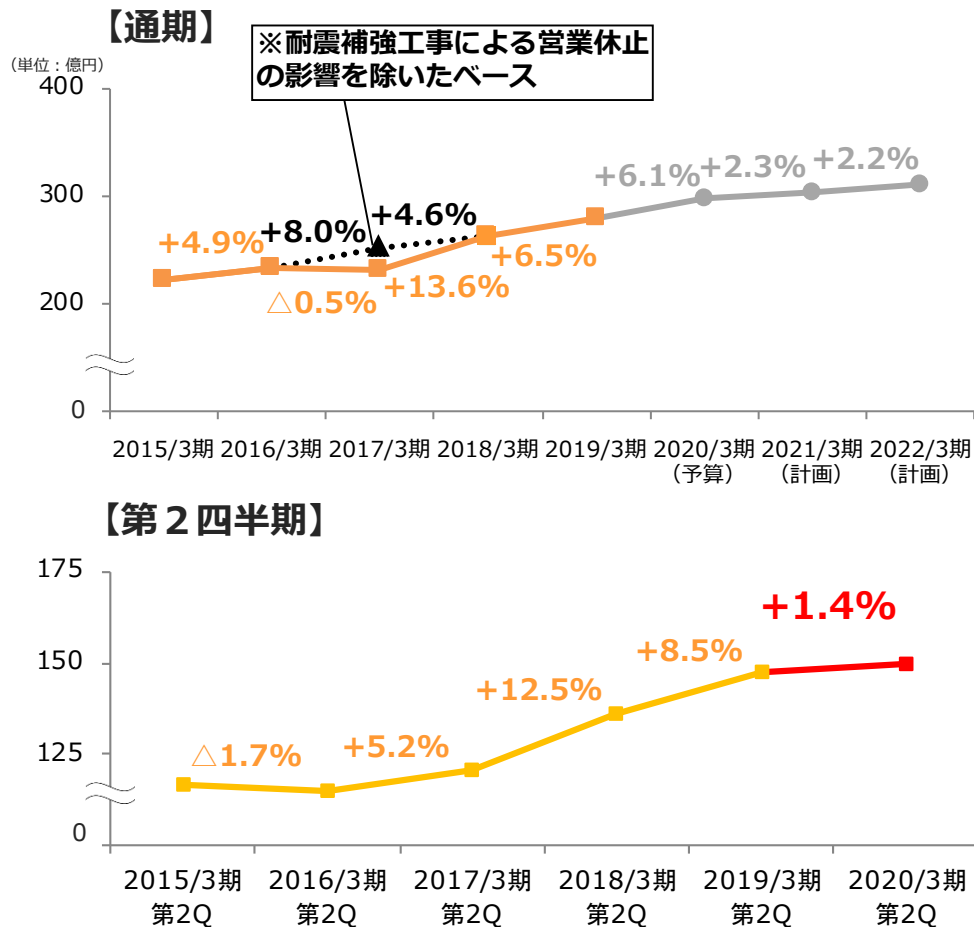
北米、欧州、豪州など、より単価の高い地域は引き続き増加。台湾など東アジアの一部地域が減少。

ホテル・レジャー事業 MICEの状況

■ホテル業の売上高構成比 (2020年3月期 第2Q)



■MICE売上高の推移



一部の業界においてミーティング需要の減少が見られ、伸び率が鈍化

不動産事業 概況

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	32,665	34,902	+2,237	+6.8%	
不動産賃貸業	23,538	24,449	+910	+3.9%	ダイヤゲート池袋の開業などにより増収
その他	9,126	10,453	+1,326	+14.5%	前年同期にあった保険の販売代理手数料収入がなくなったものの、分譲マンション「アンヴィーネ保谷」の引渡しなどにより増収
営業利益	10,521	10,487	△ 33	△ 0.3%	増収による増益があったものの、ダイヤゲート池袋にかかる減価償却費の計上などにより減益
償却前営業利益	15,606	16,343	+736	+4.7%	増収による増益

(面積：千㎡)

		2017/3期 第2Q	2018/3期 第2Q	対前年同期	2019/3期 第2Q	対前年同期	2020/3期 第2Q	対前年同期
建物賃貸物件	商業施設	237	237	+ 0	243	+ 6	245	+ 1
の期末貸付面積	オフィス・住宅	160	170	+ 10	173	+ 3	202	+ 28
建物賃貸物件	商業施設	1.1%	0.7%	△ 0.4pt	1.2%	+0.5pt	1.3%	+0.1pt
の期末空室率	オフィス・住宅	2.0%	0.8%	△ 1.2pt	0.9%	+0.1pt	3.4%	+2.5pt

(注) 土地の賃貸は含んでおりません

建設事業 概況

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	48,230	50,111	+1,881	+3.9%	
建設業	35,323	35,419	+96	+0.3%	前年同期にあった大型のリノベーション工事がなくなったものの、民間住宅工事や公共土木工事の増加などにより増収
その他	12,906	14,692	+1,785	+13.8%	建材の仕入販売の増加、造園請負工事の増加などにより増収
営業利益	2,119	2,380	+261	+12.3%	土木工事の増収や利益率の向上などにより増益
償却前営業利益	2,317	2,592	+274	+11.9%	

建設業の受注高の状況

(金額単位：百万円)

	2017/3期 第2Q	2018/3期 第2Q	対前年同期	2019/3期 第2Q	対前年同期	2020/3期 第2Q	対前年同期
期首繰越高	99,069	89,755	△ 9,313	100,542	+10,787	88,975	△ 11,567
期中受注高	40,812	46,103	+5,290	34,642	△ 11,460	34,071	△ 570
期末繰越高	105,340	100,660	△ 4,679	100,045	△ 615	87,807	△ 12,237

ハワイ事業 概況

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	9,419	11,005	+1,586	+16.8%	前期にウェスティンブランドに加盟し、リニューアルオープンしたウェスティン ハプナ ビーチ リゾートが収益向上に寄与したほか、プリンス ワイキキ、マウナ ケア ビーチ ホテルにおけるRevPAR上昇および飲食部門の客数増加などにより増収
営業利益	△ 467	171	+638	—	増収により損益が改善
償却前営業利益	752	1,548	+796	+106.0%	

ホテルの営業指標

	2017/3期 第2Q	2018/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2019/3期 第2Q	対前年同期 増減率	2020/3期 第2Q	対前年同期 増減率
RevPAR (円)	19,369	18,999	△ 1.9%	26,081	+ 37.3%	30,862	+ 18.3%
RevPAR (米ドル)	176.08	180.95	+ 2.8%	226.79	+ 25.3%	268.36	+ 18.3%
平均販売室料 (円)	27,302	30,218	+ 10.7%	36,546	+ 20.9%	38,862	+ 6.3%
平均販売室料 (米ドル)	248.20	287.79	+ 16.0%	317.79	+ 10.4%	337.93	+ 6.3%
客室稼働率	70.9%	62.9%	△ 8.0pt	71.4%	+8.5pt	79.4%	+8.0pt

その他 概況

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期 (増減額・率)		摘要
営業収益	25,904	27,555	+1,651	+6.4%	西武ライオンズにおいて各種営業施策の実施や好調なチーム成績を背景に観客動員数が増加したほか、メットライフドームにおけるコンサート等の貸会場収入が増加したことなどにより増収
営業利益	3,010	3,855	+844	+28.1%	増収による増益
償却前営業利益	4,477	5,480	+1,002	+22.4%	

I. エグゼクティブ・サマリー P2

II. 2020年3月期 第2四半期までの主な取り組み P6

III. セグメント情報及び営業指標 P9

IV. 決算実績詳細 P22

V. 2020年3月期 連結業績予想 P26

連結損益計算書サマリー

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期	摘要
営業収益	283,240	294,689	+11,448	都市交通・沿線：+18億円、ホテル・レジャー：+34億円、 不動産：+22億円、建設：+18億円、ハワイ：+15億円、 その他：+16億円、調整額：△12億円
営業利益	42,073	43,796	+1,722	都市交通・沿線：+5億円、ホテル・レジャー：△7億円、 不動産：△0億円、建設：+2億円、ハワイ：+6億円、 その他：+8億円、調整額：+2億円
営業外収益	1,680	1,231	△ 449	
営業外費用	5,547	5,561	+14	
経常利益	38,207	39,466	+1,258	
特別利益	315	468	+153	
特別損失	2,378	1,612	△ 766	前期：投資有価証券評価損 10億円
税金等調整前四半期純利益	36,144	38,322	+2,177	
法人税等	9,764	9,772	+8	
四半期純利益	26,380	28,549	+2,168	
非支配株主に帰属する四半期純利益	427	430	+3	
親会社株主に帰属する四半期純利益	25,953	28,118	+2,165	

営業外・特別損益

(金額単位：百万円)

	2019/3期 第2Q	2020/3期 第2Q	対前年同期	摘要
営業利益	42,073	43,796	+1,722	
営業外収益	1,680	1,231	△ 449	
受取利息・配当金	535	492	△ 43	
バス路線運行維持費補助金	256	231	△ 25	
為替差益	390	—	△ 390	
その他営業外収益	498	507	+8	
営業外費用	5,547	5,561	+14	
支払利息	5,127	5,058	△ 68	
持分法による投資損失	36	37	+1	
その他営業外費用	383	465	+81	
経常利益	38,207	39,466	+1,258	
特別利益	315	468	+153	
固定資産売却益	159	129	△ 30	
工事負担金等受入額	6	252	+246	
補助金収入	65	51	△ 13	
投資有価証券売却益	—	10	+10	
その他特別利益	84	24	△ 59	
特別損失	2,378	1,612	△ 766	
減損損失	96	160	+63	
固定資産売却損	311	3	△ 307	
固定資産除却損	865	901	+36	
工事負担金等圧縮額	6	245	+239	
固定資産圧縮損	50	41	△ 8	
投資有価証券評価損	1,003	235	△ 768	
その他特別損失	44	23	△ 20	
税金等調整前四半期純利益	36,144	38,322	+2,177	

連結貸借対照表サマリー

(金額単位：百万円)

	2019/3期 期末	2020/3期 2Q末	対前期	摘要
資産 合計	1,728,929	1,720,852	△ 8,077	
流動資産	134,512	128,204	△ 6,307	受取手形及び売掛金 △4,811 分譲土地建物 △887 現金及び預金 △599 その他 △3,248 未成工事支出金 +3,208
固定資産	1,594,417	1,592,647	△ 1,770	投資有価証券 △2,966 退職給付に係る資産 △710 有形・無形固定資産 +2,687
負債 合計	1,306,214	1,283,441	△ 22,773	
流動負債	367,238	381,618	+14,379	短期借入金 +39,279 前受金 +15,629 未払法人税等 +2,009 支払手形及び買掛金 △7,101 その他 △36,048 (設備投資未払金等の減少)
固定負債	938,976	901,823	△ 37,153	長期借入金 △38,061 鉄道・運輸機構長期未払金 △1,841 リース債務 +3,024
純資産 合計	422,715	437,410	+14,695	利益剰余金 +22,384 自己株式 △3,025 為替換算調整勘定 △1,840 その他有価証券評価差額金 △1,716 退職給付に係る調整累計額 △1,519
有利子負債 期末残高	905,057	907,361	+2,303	
ネット有利子負債	878,508	881,411	+2,903	

I. エグゼクティブ・サマリー	P2
II. 2020年3月期 第2四半期までの主な取り組み	P6
III. セグメント情報及び営業指標	P9
IV. 決算実績詳細	P22
V. 2020年3月期 連結業績予想	P26

2020年3月期通期 連結業績予想 (期初予想から変更はありません)

	連結		都市交通・沿線事業		ホテル・レジャー事業		不動産事業		建設事業		ハワイ事業		その他		調整額	
		対前期		対前期		対前期		対前期		対前期		対前期		対前期		対前期
営業収益	5,844	+ 3.3%	1,661	+ 1.8%	2,340	+ 6.5%	661	△ 5.1%	1,086	△ 1.0%	254	+ 33.1%	408	△ 2.7%	△ 566	-
営業利益	710	△ 3.2%	256	△ 5.5%	209	+ 5.9%	170	△ 15.4%	54	△ 8.3%	21	-	△ 2	-	2	△ 68.8%
償却前営業利益	1,285	+ 0.9%	483	△ 1.0%	378	+ 4.8%	287	△ 5.7%	59	△ 6.6%	50	+ 314.6%	31	△ 28.1%	△ 3	-
経常利益	627	△ 4.2%														
親会社株主に帰属する 当期純利益	462	+ 1.6%														

(注) 連結業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。